

デジタルワイヤレス パッケージ

取扱説明書

DWZ-M50

DWZ-B30GB

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の
取り扱いかたを示してあります。**この取扱説明書をよく読みのうえ、**
製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、
いつでも見られるところに必ず保管してください。

目次

商品の構成	3	システム構成例	28
DWZ-M50	3	DWZ-M50 の使用例	28
DWZ-B30GB	4	DWZ-B30GB の使用例	29
単売モデル	4		
特長	5	故障かなと思ったら	30
DWZ-M50	6	使用上のご注意	33
DWZ-B30GB	6	使用・保管場所	33
各部の名称と働き	7	お手入れ	34
DWZ-M50	7	主な仕様	34
DWZ-B30GB	10	DWZ-M50	34
電源	15	DWZ-B30GB	36
電池を入れる	15		
付属品の取り付け	17		
ハンドヘルドマイクrohホン （ZTX-M01）への付属品 取り付け	17		
ハーフラックレシーバー （ZRX-HR50）への付属品 取り付け	17		
ボディークラックトランスミッター （ZTX-B01）への付属品 取り付け	18		
コンパクトレシーバー（ZRX-C30） への付属品取り付け	18		
受信機の設定	19		
ハーフラックレシーバー （ZRX-HR50）	19		
コンパクトレシーバー （ZRX-C30）	22		
送信機の設定	23		
送信チャンネルを設定する	23		
チャンネル表示	24		
チャンネル周波数リスト	25		

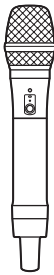
商品の構成

この取扱説明書は、ソニーデジタルワイヤレスパッケージ DWZ-M50/B30GB に共通です。各パッケージの商品構成は次のとおりです。

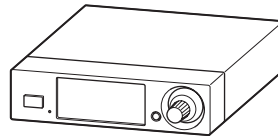
DWZ-M50

ハンドヘルドマイクロホン（送信機：ZTX-M01）とハーフラックレシーバー（受信機：ZRX-HR50）のセットです。

ハンドヘルドマイクロホン
(ZTX-M01) (1)

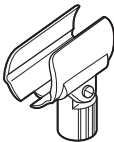


ハーフラックレシーバー
(ZRX-HR50) (1)



付属品

マイクホルダー (1)



アンテナ (2)



AC アダプター (1)

ご使用になる前に (1)
よりよい環境でご使用になるために (1)

クイックスタートガイド (1)

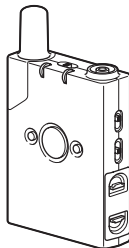
取扱説明書 (CD-ROM) (1)

保証書 (2)

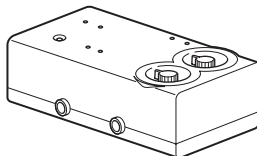
DWZ-B30GB

ポディーパケットランスミッター（送信機：ZTX-B01）とコンパクトレシーバー（受信機：ZRX-C30）のセットです。

ポディーパケットランスミッター
(ZTX-B01) (1)



コンパクトレシーバー
(ZRX-C30) (1)

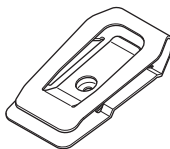


付属品

ギターケーブル (1)



ベルトクリップ (1)



ケーブルクランプ (1)



ベルトクリップ固定ネジ
(1)
AC アダプター (1)

ご使用になる前に (1)
よりよい環境でご使用になる
ために (1)

クイックスタートガイド
(1)
取扱説明書 (CD-ROM)
(1)
保証書 (2)

単売モデル

各パッケージに含まれる送信機および受信機を単独で販売しています。それぞれの商品構成は次のとおりです。

ZTX-M01

- ハンドヘルドマイクロホン (ZTX-M01) (1)
- マイクホルダー (1)
- ご使用になる前に (1)
- 取扱説明書 (トルコ語) (1)

- 取扱説明書 (CD-ROM) (1)
- 保証書 (1)

ZTX-B01

- ポディーパケットランスミッター (ZTX-B01) (1)
- ベルトクリップ (1)
- ベルトクリップ固定ネジ (1)
- ご使用になる前に (1)
- 取扱説明書 (トルコ語) (1)
- 取扱説明書 (CD-ROM) (1)
- 保証書 (1)

ZRX-HR50

- ハーフラックレシーバー (ZRX-HR50)
(1)
- AC アダプター (1)
- アンテナ (2)
- ご使用になる前に (1)
- 取扱説明書 (CD-ROM) (1)
- 保証書 (1)

ZRX-C30

- コンパクトレシーバー (ZRX-C30)
(1)
- AC アダプター (1)
- ケーブルクランプ (1)
- ご使用になる前に (1)
- 取扱説明書 (CD-ROM) (1)
- 保証書 (1)

特長

DWZ シリーズは、ソニーが長年培ってきた高音質を実現するオーディオ技術、高い信頼性を確保するワイヤレス技術、そして最先端のデジタル信号処理技術を融合させた、デジタルワイヤレスシステムです。免許不要の 2.4 GHz 帯を使用し、多彩な機能を備えつつも簡単設定とシンプルで直感的な操作性を実現。

使用用途に最適化されたパッケージを用意し、ワイヤレスシステムに不慣れな方からプロフェッショナルまで、幅広いユーザーの要求に応えます。

高音質

音声の圧縮・伸長などの信号処理をしない、24bit 高音質リニア PCM デジタル伝送 (RF モードが Narrow Mode (NARROW) に設定されている場合のみ有効) により、有線マイクに迫る高音質・高帯域伝送を実現します。

高信頼性

用途によって選択できる 2 つの RF モードとソニー独自の音声データ処理により、信頼性の高い無線伝送と無線 LAN との共存を実現します。2 つの RF モードはそれぞれ 6 チャンネルで構成されているため、用途に合わせた RF モードとチャンネルを選択して使用できます。また、レシーバーに 2 本のアンテナを装備し、受信状態の良好な方を自動選択するスペースダイバーシティ方式により、音切れやノイズの発生を抑えた安定した受信が可能です。

DWZ-M50

ボーカルユースに最適な、ハンドヘルドマイクロホン（送信機：ZTX-M01）とハーフラックレシーバー（受信機：ZRX-HR50）各1点ずつの組み合わせです。

ZTX-M01

堅牢な金属ボディのマイクロホンです。

ミュートイング機能を備え、アッテネーターの調整機能により幅広い音声入力レベルに対応します。また、マイクロホンカプセルを交換することで、さまざまな用途に使用できます。

* マイクロホンユニットの取り付け部寸法：直径 31.3 mm、ピッチ 1.0 mm

ZRX-HR50

高解像度の大きな画面カラー LCD を備え、高性能とシンプル操作を両立させたハーフラックレシーバーです。

ベストチャンネルセレクション機能およびクリアチャンネルスキャン機能により、素早く簡単に安全なチャンネル設定を実現します。また、ワイヤードとワイヤレスの音質をマッチさせるケーブルトーンジェネレーターを搭載。ワイヤレスにした際の、アンプ側のイコライザー調整を最低限に抑えます。さらに、5 バンドのグラフィックイコライザーにより、幅広い音質調整が可能です。

UNBALANCED/BALANCED

OUTPUT 端子はミュートイング機能の有効・無効を選択できます。

別売のラックマウントキット RMM-HRD1 を使用することで、ラックマウントが可能です。

DWZ-B30GB

エレクトリックギター、エレクトリックアコースティックギターおよびエレクトリックベースなどに最適な、ボディパックストランスミッター（送信機：ZTX-B01）とコンパクトレシーバー（受信機：ZRX-C30）各1点ずつの組み合わせです。

ZTX-B01

堅牢な金属ボディのトランスミッターです。

ミュートイング機能を備え、楽器入力とマイク入力の切り換えスイッチおよびアッテネーター調整機能により、幅広いオーディオ入力レベルに対応します。また、90 度ごとに向きを変えられるベルトクリップにより、使用状況に合わせてケーブルの出る向きを調節できます。

ZRX-C30

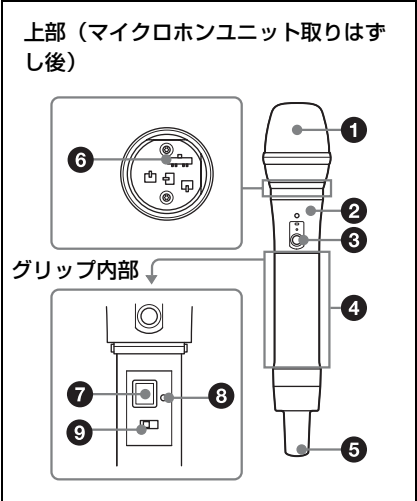
アンテナを内蔵し、ラフな扱いにも破損しにくいコンパクトレシーバーです。

付属の 12V AC アダプターまたは外部の DC 9V 電源からの電源供給、および角形 9 V 乾電池（6LR61）で動作します。外部電源（パワーディストリビューター）に対応し、バッテリー駆動によるノイズ対策も可能です。また、ワイヤードとワイヤレスの音質をマッチさせるケーブルトーンジェネレーターを搭載。ワイヤレスにした際の、アンプ側のイコライザー調整を最低限に抑えます。なお、TUNER OUT 端子はミュートイング機能の適用外のため、音を出さずにチューニングできます。

各部の名称と働き

DWZ-M50

ハンドヘルドマイクロホン（送信機：ZTX-M01）



① マイクロホンユニット

標準装備のマイクロホンユニットのほか、直径 31.3 mm、ピッチ 1.0 mm の取り付け寸法のマイクロホンユニットを取り付けることができます。

- ◆ マイクロホンユニットの取り付けおよび取りはずし方法について詳しくは、「マイクロホンユニットを交換する」（17 ページ）をご覧ください。

② BATT/MUTING（電池残量 / 消音）インジケータ

電源が ON になると点灯します。
電池の残量、およびミュート機能の ON/OFF を表示します。

インジケータの表示	状態
点灯（緑）	良好
点灯（赤）	ほとんど消耗している
点滅（橙）	ミュート（消音）ON

電池の残量表示は、アルカリ乾電池を使用している場合の表示です。

③ POWER/MUTING（電源 / 消音）ボタン

本機の電源を ON/OFF します。また、ミュート（消音）機能の ON/OFF もこのボタンで操作します。

機能	ボタンの操作
電源 ON	ボタンを 1 秒以上押す
電源 OFF	表示が消えるまでボタンを押す
ミュート ON	ボタンを押す
ミュート OFF	

④ グリップ

操作ボタン類、チャンネル表示部、電池ホルダーが内部に格納されています。
チャンネル設定や電池の交換を行うときは、グリップを開けてお使いください。

- ◆ グリップの開けかたについて詳しくは、「電池を入れる」（15 ページ）をご覧ください。

⑤ アンテナカバー

アンテナが格納されています。

ご注意

アンテナカバーを握らないようにしてください。アンテナカバーを握ると送信す

る電波が弱まり、使用できる範囲が狭くなります。

⑥ ATT（アッテネーター切り換え）スイッチ

声の大きさに合わせて、アッテネーターの減衰量を切り換えます。工場出荷時は、0 dB に設定されています。

減衰量 (dB)	使いかた
0	標準位置。
6	受信機の音声レベルメーターに赤いバーがときどき表示される場合に使用します。
12	受信機の音声レベルメーターに赤いバーが常に表示される場合に使用します。

マイクロホンユニットを取りはずすと、本体上部にアッテネーター切り換えスイッチがあります。

- ◆ マイクロホンユニットの取り付けおよび取りはずし方法について詳しくは、「マイクロホンユニットを交換する」(17 ページ) をご覧ください。

⑦ チャンネル表示部

送信チャンネルを表示します。

表示は、約 10 秒で消灯します。チャンネル選択ボタンを押すことで再度点灯させることができます。

- ◆ チャンネル表示について詳しくは、「チャンネル表示」(24 ページ) をご覧ください。

⑧ チャンネル選択ボタン

RF モードと送信チャンネルの選択に使用します。

- ◆ RF モードと送信チャンネルの選択について詳しくは、「送信チャンネルを設定する」(23 ページ) をご覧ください。

⑨ 誤操作防止スイッチ

本機の POWER/MUTING（電源 / 消音）ボタンとチャンネル選択ボタンをロックします。誤って電源を切るなどの誤操作を防止できます。工場出荷時は、UNLOCK に設定されています。

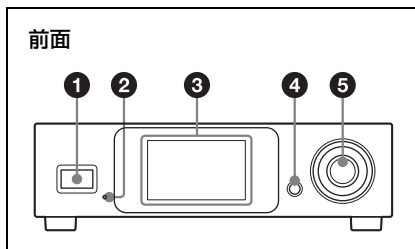
LOCK：各ボタンがロックされ、操作ができない状態になります。

UNLOCK：ロックが解除され、各ボタンの操作ができる状態になります。

ご注意

LOCK 状態のときは、電源を ON にすることもできません。UNLOCK 状態にしてから操作してください。

ハーフラックレシーバー（受信機：ZRX-HR50）



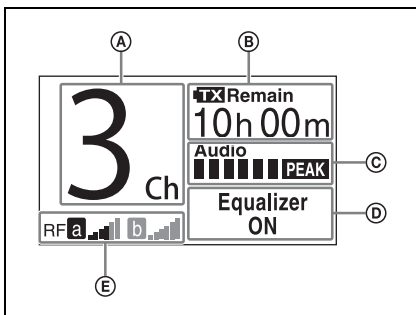
① POWER（電源）ボタン

本機の電源を ON/OFF します。

② POWER（電源）インジケーター

電源が ON になっているときに点灯します。

③ ディスプレイ部



設定情報などが表示されます。

① 受信チャンネル表示

受信するチャンネルを表示します。

② 送信機電池残量表示

送信機の電池残量を表示します。
およその使用可能時間を表示します。
受信していないときには時間は表示されません。

③ 音声レベルメーター

音声レベルを表示します。
赤色のバーが表示され続けることがない
ように音量を設定します。

④ イコライザー状態表示

イコライザーの ON/OFF を表示します。

⑤ 受信レベルインジケーター

電波の受信状態を表示します。
表示されているバーが多いほど、安定し
て受信できる状態です。

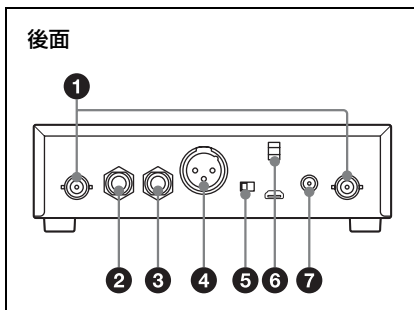
④ ESC (エスケープ) ボタン

操作をキャンセルしたり、設定画面から
通常画面に戻るときに押します。

⑤ ロータリーエンコーダー

設定を変更する際に使います。

- ◆ 設定の変更について詳しくは、「受信機の設定」(19 ページ) をご覧ください。



① ANTENNA a/b (アンテナ) 端子 (BNC タイプ)

付属のアンテナを取り付けます。

② UNBALANCED OUTPUT AUX/TUNER (音声出力外部) 端 子 (フォーンジャック)

モニター機器などの周辺機器との接続時
に使います。

送信機のミュート機能機能が ON に
なっている場合でも、UNBALANCED
OUTPUT AUX/TUNER 端子からは音
が出続けます。UNBALANCED
OUTPUT AUX/TUNER 端子の音声は、
受信機側の画面上で ON/OFF できます。

- ◆ 設定方法について詳しくは、「出力端子の
ミュート機能を設定する」(21 ページ)
をご覧ください。

- ◆ 接続方法について詳しくは、「システム構成
例」(28 ページ) をご覧ください。

③ UNBALANCED OUTPUT MAIN (音声出力メイン) 端子 (フォーンジャック)

ミキサーやアンプとの接続時に使います。

◆ 接続方法について詳しくは、「システム構成例」(28 ページ) をご覧ください。

④ BALANCED OUTPUT (バランス出力) 端子 (XLR タイプ)

ミキサーなどとの接続時に使います。

◆ 接続方法について詳しくは、「システム構成例」(28 ページ) をご覧ください。

⑤ MIC/LINE (音声出力レベル) セレクター

BALANCED OUTPUT (バランス出力) 端子の音声出力レベルを選択します。工場出荷時は、MIC に設定されています。
MIC : 音声出力レベルをマイクレベルに設定。

LINE : 音声出力レベルをラインレベルに設定。

ご注意

オーディオミキサーなどへの音声の出力中に、このセレクターを「LINE」側に切り換えしないでください。過大なレベルの音声が入力されると、音声のひずみや再生・録音機器の故障の原因となることがあります。

⑥ ケーブルクランプ

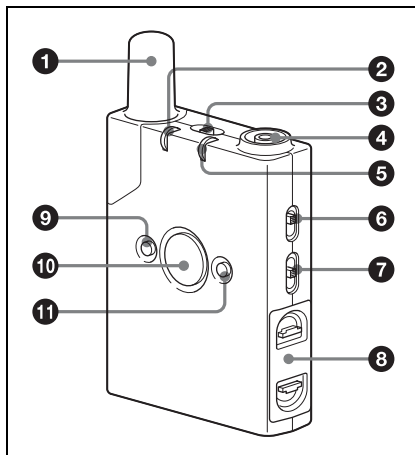
付属の AC アダプターのケーブルを留めるために使います。

⑦ DC IN 12V (12 V 電源入力) 端子

付属の AC アダプターを接続します。

DWZ-B30GB

ボディーパケットランスマター (送信機 : ZTX-B01)



① アンテナカバー

アンテナが格納されています。

ご注意

アンテナカバーを握らないようにしてください。アンテナカバーを握ると送信する電波が弱まり、使用できる範囲が狭くなります。

② BATT (電池残量) インジケーター

電源が ON になっているときに、電池の残量を表示します。

インジケータの表示	状態
点灯（緑）	良好
点灯（赤）	ほとんど消耗している

電池の残量表示は、アルカリ乾電池を使用している場合の表示です。

③ 誤操作防止スイッチ

本機の POWER/MUTING（電源 / 消音）ボタンと CHANNEL SELECT（チャンネル選択）ボタンをロックします。誤って電源を切るなどの誤操作を防止できます。工場出荷時は、UNLOCK に設定されています。

LOCK：各ボタンがロックされ、操作ができない状態になります。

UNLOCK：ロックが解除され、各ボタンの操作ができる状態になります。

ご注意

LOCK 状態のときは、電源を ON にすることもできません。UNLOCK 状態にしてから操作してください。

④ 音声入力端子

付属のギターケーブルを使用してギターなどの楽器を接続します。

⑤ AUDIO/MUTING（音声 / 消音）インジケータ

音声信号の入力レベル、およびミューティング機能の状態を表示します。

インジケータの表示	状態
点灯（緑）	音声入力あり
点灯（赤）	音声の過大入力

インジケータの表示	状態
消灯	音声入力小さい、またはない
点滅（橙）	ミューティング（消音）ON

⑥ INPUT（入力切り換え）スイッチ

接続する機器にあわせて切り換えます。工場出荷時は、INST に設定されています。

INST：ギターなどを接続する場合。

MIC：マイクロホンを接続する場合。

ご注意

- 別売のマイクロホン ECM-HZ1UBMP/LZ1UBMP 以外のマイクロホンを接続すると、音が出ない、位相が反転するなどの現象が起こる場合があります。
- オーディオミキサーなどの音声を入力中に、このスイッチを「MIC」側に切り換えしないでください。過大なレベルの音声が出力されると、音声のひずみや再生・録音機器の故障の原因となる場合があります。

◆ 設定について詳しくは、「システム構成例」（28 ページ）をご覧ください。

⑦ ATT（アッテネーター切り換え）スイッチ

接続する機器にあわせてアッテネーターの減衰量を切り換えます。工場出荷時は、0 dB に設定されています。

減衰量 (dB)	使いかた
0	標準位置。

減衰量 (dB)	使いかた
10	AUDIO/MUTING インジケータがときどき赤く点灯するとき。
20	AUDIO/MUTING インジケータが常に赤く点灯するとき。

⑧ 電池ケース

単 3 形電池 2 本を入れます。

◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電池を入れる」(15 ページ) をご覧ください。

⑨ POWER/MUTING (電源 / 消音) ボタン

本機の電源を ON/OFF します。また、ミュートイング (消音) 機能の ON/OFF もこのボタンで操作します。

機能	ボタンの操作
電源 ON	ボタンを 1 秒以上押す
電源 OFF	表示が消えるまでボタンを押す
ミュートイング ON	ボタンを押す
ミュートイング OFF	

⑩ チャンネル表示部

送信チャンネルを表示します。

表示は、約 10 秒で消灯します。チャンネル選択ボタンを押すことで再度点灯させることができます。

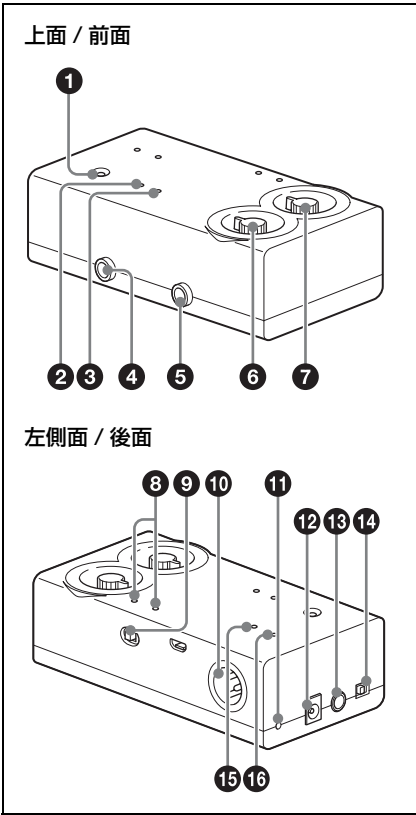
◆ チャンネル表示について詳しくは、「チャンネル表示」(24 ページ) をご覧ください。

⑪ CHANNEL SELECT (チャンネル選択) ボタン

RF モードと送信チャンネルの選択に使います。

◆ RF モードと送信チャンネルの選択について詳しくは、「送信チャンネルを設定する」(23 ページ) をご覧ください。

コンパクトレシーバー (受信機 : ZRX-C30)



① POWER (電源) インジケータ

電源が ON になっているときに点灯します。角形 9 V 乾電池 (6LR61) を使用している場合は、電池の残量を表示します。

インジケータの表示	状態
点灯 (緑)	良好

インジケータの表示	状態
点灯（赤）	ほとんど消耗している

② RF（高周波入力）インジケータ
電波の受信状態を表示します。

インジケータの表示	状態
点灯（緑）	受信状態が良好
点灯（赤）	受信状態が悪い
消灯	受信していない

③ AUDIO（音声）インジケータ
音声信号の状態を表示します。

インジケータの表示	状態
点灯（緑）	音声入力あり
点灯（赤）	音声の過大入力
消灯	音声入力小さい、またはない

④ TUNER OUT（チューナー出力）端子（フォーンジャック）

チューニングメーターなどとの接続時に使います。

で注意

送信機のミュート機能機能が ON になっている場合でも、TUNER OUT 端子からは音が出続けます。

◆ 接続方法について詳しくは、「システム構成例」（28 ページ）をご覧ください。

⑤ MAIN OUT（メイン出力）端子（フォーンジャック）

ギターアンプやベースアンプとの接続時に使います。

◆ 接続方法について詳しくは、「システム構成例」（28 ページ）をご覧ください。

⑥ CABLE TONE（ケーブルトーンジェネレーター設定）スイッチ

つまみを回してケーブルトーンジェネレーターを設定します。工場出荷時は、OFF に設定されています。

◆ ケーブルトーンジェネレーターについて詳しくは、「ケーブルトーンジェネレーターを設定する」（23 ページ）をご覧ください。

⑦ CHANNEL（チャンネル選択）スイッチ

つまみを回して受信チャンネルを選択します。

受信チャンネルは、RF MODE（RF モード）スイッチで選択している RF モードのチャンネルに設定されます。工場出荷時は、1/a に設定されています。

◆ 設定方法について詳しくは、「RF モードと受信チャンネルを設定する」（22 ページ）をご覧ください。

⑧ RF MODE（RF モード）インジケータ

RF MODE（RF モード）スイッチで選択している RF モードのインジケータが点灯します。

⑨ RF MODE（RF モード選択）スイッチ

RF モードを選択します。工場出荷時は、WIDE に設定されています。

◆ 設定方法について詳しくは、「RF モードと受信チャンネルを設定する」（22 ページ）をご覧ください。

⑩ BALANCED OUTPUT (バランス出力) 端子 (XLR タイプ)

ミキサーなどとの接続時に使います。

- ◆ 接続方法について詳しくは、「システム構成例」(28 ページ) をご覧ください。

⑪ ケーブルクランプ取り付け穴

付属のケーブルクランプを取り付けます。

- ◆ ケーブルクランプの取り付けかたについて詳しくは、「ケーブルクランプを取り付ける」(18 ページ) をご覧ください。

⑫ DC IN 9V (9 V 電源入力) 端子



市販の DC 9 V 電源を入力する際に使います。

⑬ DC IN 12V (12 V 電源入力) 端子



付属の AC アダプターを接続します。

⑭ POWER (電源) スイッチ

本機の電源を ON/OFF します。

⑮ TX MUTING (送信機消音) インジケーター

送信機のミュート機能の状態を表示します。

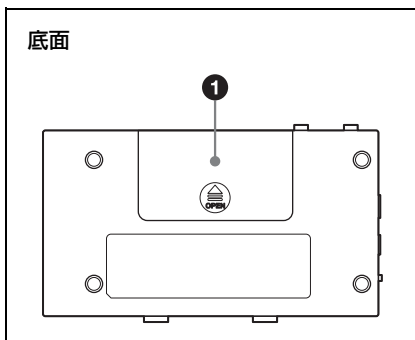
ミュート機能が ON のときは橙色で点滅します。

⑯ TX BATT (送信機電池残量) インジケーター

送信機の電池の残量を表示します。

インジケーターの表示	状態
点灯 (緑)	良好
点灯 (赤)	ほとんど消耗している

電池の残量表示は、アルカリ乾電池を使用している場合の表示です。



① 電池蓋

角形 9 V 乾電池 (6LR61) 1 本を入れます。

- ◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電池を入れる」(15 ページ) をご覧ください。

電源

ここでは各機器の電源について説明します。

- ◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電池を入れる」(15 ページ)をご覧ください。

ハンドヘルドマイクロホン (ZTX-M01)、ボディーパック トランスミッター (ZTX-B01)

単 3 形電池 2 本で動作します。

使用できる電池の種類は次のとおりです。

- アルカリ乾電池
- 充電式ニッケル水素電池
- リチウム電池

ハーフラックレシーバー (ZRX- HR50)

付属の AC アダプターにて電源を供給します。

コンパクトレシーバー (ZRX- C30)

付属の AC アダプター、または市販の DC 9 V 電源にて電源を供給するか、角形 9 V 乾電池 (6LR61) で動作します。

電源使用の優先順位について

複数の電源が同時に使用できる状態になっている場合には、以下の順に電源を優先的に使用します。

- ① 12 V 電源入力
- ② 9 V 電源入力
- ③ 角形 9 V 乾電池 (6LR61)

電池を入れる

注意

指定以外の電池に交換すると、破裂する危険があります。

必ず指定の電池に交換してください。

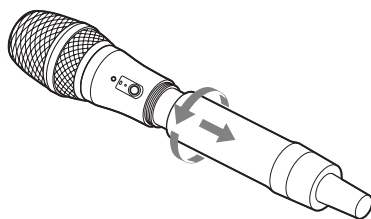
使用済みの電池は、国または地域の法令に従って処理してください。

ご注意

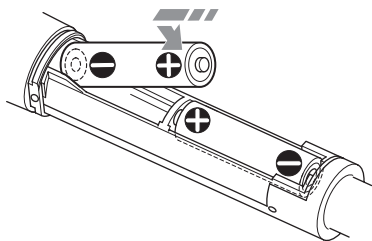
- 電池は必ず同じ種類の電池を使用してください。違う種類の電池や残量の異なる電池を組み合わせで使用しないでください。
- 使用中に電池の交換を行うと、大きな雑音が発生します。電池の交換は、必ず電源を切ってから行ってください。

ハンドヘルドマイクロホン (ZTX-M01)

- 1 POWER/MUTING (電源 / 消音) ボタンを長押しして、電源を切る。
- 2 グリップを矢印の方向に回して引き下げ、電池ホルダーが見える状態にする。



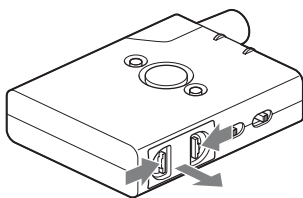
- 3 新しい単3形電池2本の⊕と⊖を確認して入れる。



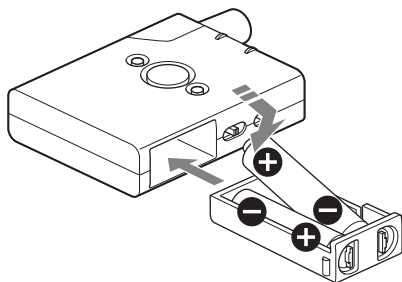
- 4** グリップを閉じ、手順**2**と逆方向に回して固定する。

ボディーパケットランスマー (ZTX-B01)

- 1** POWER/MUTING (電源 / 消音) ボタンを長押しして、電源を切る。
- 2** 2つの取っ手をつまんで同時に中央に寄せながら、電池ケースを引き出す。



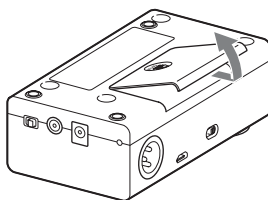
- 3** 新しい単3形電池2本の \oplus と \ominus を確認して入れ、電池ケースを戻す。



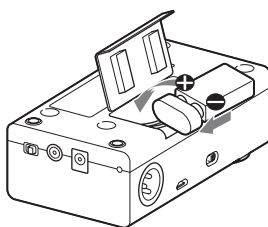
電池ケースが本体にしっかりロックされていることを確認してください。

コンパクトレシーバー (ZRX-C30)

- 1** POWER (電源) スイッチを OFF 側にして、電源を切る。
- 2** 底面の電池蓋をスライドさせて開ける。



- 3** 新しい角形9V乾電池 (6LR61) 1本の \oplus と \ominus を確認し、本機のバッテリースナップに取り付けて電池ケースに入れる。



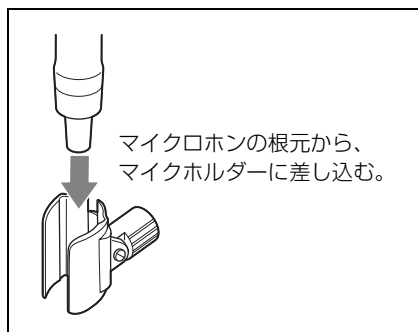
- 4** 電池蓋を閉める。

付属品の取り付け

ここでは、各機器への付属品の取り付けかたについて説明します。

ハンドヘルドマイクロホン (ZTX-M01) への付属品取り付け

マイクホルダーを取り付ける



マイクロホンユニットを交換する

マイクロホンユニットを取りはずす

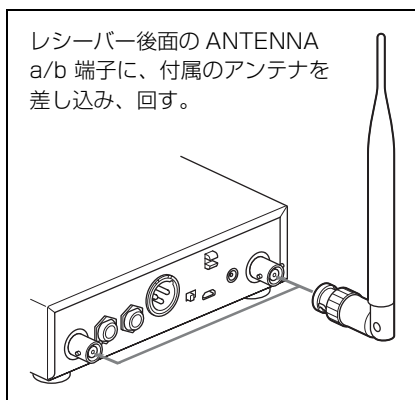


マイクロホンユニットを取り付ける

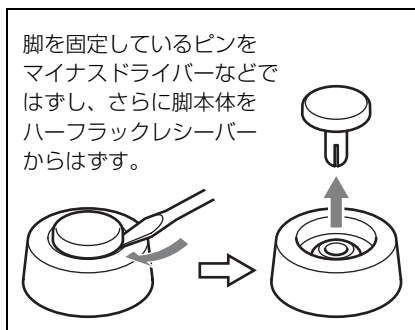
マイクロホンユニットを取りはずし時と反対に回して、しっかりマイクロホン本体に取り付けます。

ハーフラックレシーバー (ZRX-HR50) への付属品取り付け

アンテナを取り付ける

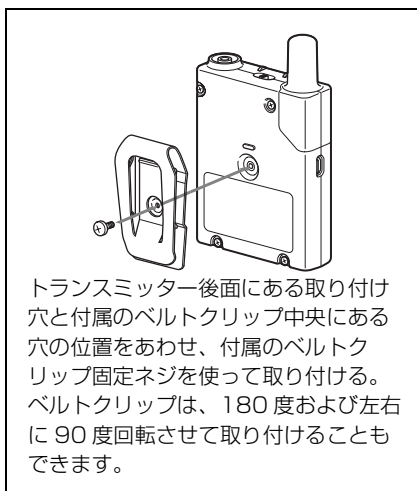


底面の脚をはずす



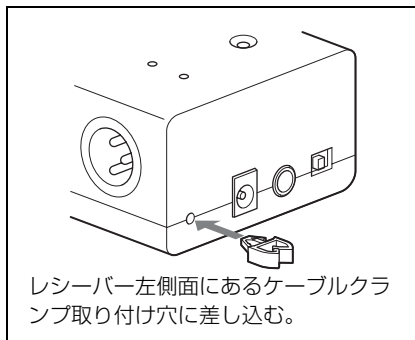
ボディパックトランスミッター（ZTX-B01）への付属品取り付け

ベルトクリップを取り付ける

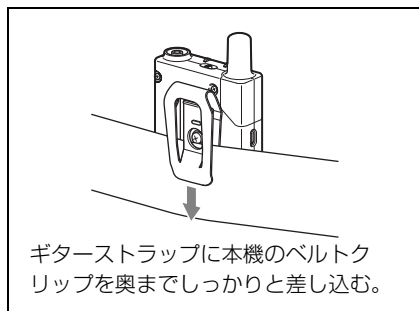


コンパクトレシーバー（ZRX-C30）への付属品取り付け

ケーブルクランプを取り付ける



ギターストラップに取り付ける



で注意

取り付けるベルトの厚さや幅によっては、十分な取り付け強度が得られないことがあります。

受信機の設定

ハーフラックレシーバー (ZRX-HR50)

ハーフラックレシーバー ZRX-HR50 の設定を行う際には、ロータリーエンコーダーと ESC ボタンを使用します。操作方法は次のとおりです。

決定：ロータリーエンコーダーを押す。

カーソルを動かす：ロータリーエンコーダーを回す。

キャンセル：ESC ボタンを押す。

設定メニューを表示する

ロータリーエンコーダーを押すことで、ディスプレイに Setup (セットアップ) 画面が表示されます。

Setup (セットアップ) 画面から通常画面に戻るには、ESC ボタンを押します。

受信チャンネルを設定する

DWZ は、Wide Band と Narrow Band という 2 つの RF モード (チャンネルモード) を用意しています。

どちらの RF モードも 6 チャンネルで構成されているので、用途に応じて適切なチャンネルを選択できます。工場出荷時は、RF モードが WIDE、送信チャンネルが 1 に設定されています。

RF モード	送信チャンネル番号	特長
Wide Band (WIDE)	1/2/3/4/5/6	他の無線機器への影響が少ないモードです。
Narrow Band (NARROW)	a/b/c/d/e/f	クリアチャンネルスキャンを使うことによって、他の無線機器からの影響を回避するのに適したモードです。

ご注意

多チャンネル (最大 6 チャンネル) で運用する場合には、Wide Band と Narrow Band の 2 つの RF モードを同時に使用することはできません。どちらか一方の RF モードを選択して運用してください。なお、Wi-Fi およびその他の妨害波の影響によって、実際に同時運用できるチャンネル数が少なくなることがあります。

RF モードを選択する

- 1 Setup (セットアップ) 画面で Advanced Settings を選択する。
- 2 RF Mode Settings を選択する。
RF Mode Settings 画面が表示されます。
- 3 Wide Band または Narrow Band を選択する。
設定が完了すると、通常画面に戻ります。

チャンネルを選択する

- 1 Setup（セットアップ）画面で Channel Setup を選択する。
Channel Setup 画面が表示されます。
- 2 以下のいずれかの方法でチャンネルを設定する。

ご注意

A または **B** の方法で設定する場合は、すべての送信機の電源を OFF にしてから操作してください。

A Best Channel Selection（ベストチャンネルセレクション）を選択する

最も妨害電波が少ないチャンネルに、自動的に設定されます。多チャンネルで運用する場合には、以下のように送信機の電源を1台ずつ ON にしながら設定することができます。

- ① すべての送信機を OFF にする。
- ② 1 台目の受信機で Best Channel Selection を選択する。
- ③ 1 台目の送信機のチャンネルを合わせる。
- ④ 1 台目の送信機を ON にしたまま、2 台目の受信機で Best Channel Selection を選択する。
- ⑤ 2 台目の送信機のチャンネルを合わせる。

B Clear Channel Scan（クリアチャンネルスキャン）を選択する

選択している RF モードの各チャンネルの妨害波状態が表示されます。



妨害波の強さはバーの高さで示されています。

よりバーの低いチャンネルを選択します。

C Manual Setup（マニュアルセットアップ）を選択する

チャンネルを手動で設定します。使いたいチャンネルを選択します。

設定が完了し、通常画面に戻ります。

ご注意

チャンネルを変更した場合は、送信機も同じチャンネルに設定してください。受信機と送信機のチャンネルが一致しないと、音声が出ません。

ケーブルトーンジェネレーターを設定する

ケーブルトーンジェネレーターとは、ケーブルを使用して有線接続をしたときのような音質の特性変化をもたらす機能です。工場出荷時は、OFF に設定されています。

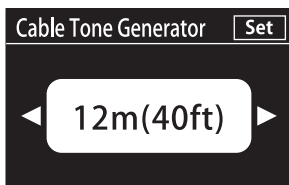
- 1 Setup (セットアップ) 画面で Audio Setup を選択する。

Audio Setup 画面が表示されます。

- 2 Cable Tone Generator を選択する。

Cable Tone Generator 画面が表示されます。

- 3 ケーブルトーンジェネレーターの数値を選択する。



普段使っているケーブル長に近い数値を選択してください。

OFF / 1m(3ft) / 1.5m(5ft) /
2m(7ft) / 3m(10ft) /
4.5m(15ft) / 6m(20ft) /
7.5m(25ft) / 9m(30ft) /
12m(40ft) / 15m(50ft) /
18m(60ft) / 21m(70ft) /
24m(80ft) / 27m(90ft) /
30m(100ft)

- 4 Set を選択する。

設定が完了し、通常画面に戻ります。

メモ

ケーブルトーンジェネレーターの回路は、イコライザー回路の前に配置されています。

イコライザーを設定する

イコライザーを設定します。工場出荷時は、各周波数のイコライザー設定が 0 dB、機能自体は OFF に設定されています。

- 1 Setup (セットアップ) 画面で Audio Setup を選択する。

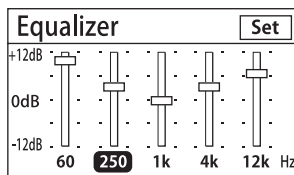
Audio Setup 画面が表示されます。

- 2 Equalizer を選択する。

Equalizer 画面が表示されます。

- 3 イコライザー機能を使用する場合は ON を、使用しない場合は OFF を選択する。

ON を選択すると、イコライザーの設定画面が表示されます。



OFF を選択した場合は、設定が完了し、通常画面に戻ります。

- 4 レベルを調整したい周波数を選択し、設定を変更する。

- 5 Set を選択する。

設定値が保存されます。

設定をキャンセルする場合は、ESC ボタンを押します。

出力端子のミュート機能を設定する

各出力端子の音声出力に対して、送信機でコントロールするミュート機能（消

音) 機能を有効にするかどうか設定することができます。工場出荷時は、To Balanced & Main Only に設定されています。

1 Setup (セッアップ) 画面で Audio Setup を選択する。

Audio Setup 画面が表示されます。

2 TX Muting を選択する。

Apply TX Muting 画面が表示されます。

3 ミューティング機能を有効にしたい端子を選択する。

ディスブ レイの 表示 端子	To All Outputs	To Balanced & Main Only	To AUX/ Tuner Only
BALANCED OUTPUT	有効	有効	－
UNBALANCED OUTPUT MAIN			－
UNBALANCED OUTPUT AUX/TUNER		－	有効

設定が完了し、通常画面に戻ります。

電池種類を設定する

本機の送信機電池残量表示が正しく表示されるように、送信機で使用する電池の種類に合わせて本機でも電池種類を設定しします。工場出荷時は、Alkaline に設定されています。

1 Setup (セッアップ) 画面で Advanced Settings を選択する。

2 Battery Type を選択する。

3 電池の種類を選択する。

Alkaline：送信機でアルカリ乾電池を使用している場合。

Ni-MH：送信機で充電式ニッケル水素電池を使用している場合。

Lithium：送信機でリチウム電池を使用している場合。

設定が完了し、通常画面に戻ります。

コンパクトレシーバー (ZRX-C30)

RF モードと受信チャンネルを設定する

DWZ は、Wide Band と Narrow Band という 2 つの RF モード (チャンネルモード) を用意しています。どちらの RF モードも 6 チャンネルで構成されているので、用途に応じて適切なチャンネルを選択できます。

RF モード	送信チャンネル番号	特長
Wide Band (WIDE)	1/2/3/4/5/6	他の無線機器への影響が少ないモードです。
Narrow Band (NARROW)	a/b/c/d/e/f	他の無線機器からの影響を回避するのに適したモードです。

ご注意

多チャンネル（最大6チャンネル）で運用する場合には、Wide Band と Narrow Band の2つの RF モードを同時に使用することはできません。どちらか一方の RF モードを選択して運用してください。なお、Wi-Fi およびその他の妨害波の影響によって、実際に同時運用できるチャンネル数が少なくなることがあります。

- 1 RF MODE (RF モード選択) スイッチで WIDE または NARROW を選択する。
- 2 CHANNEL (チャンネル選択) スイッチを回して、受信チャンネルを設定する。

ご注意

チャンネルを変更した場合は、送信機も同じチャンネルに設定してください。受信機と送信機のチャンネルが一致しないと、音声が出ません。

ケーブルトーンジェネレーターを設定する

ケーブルトーンジェネレーターとは、ケーブルを使用して有線接続をしたときのような音質の特性変化をもたらす機能です。

CABLE TONE スイッチを、目盛の数字 (m) に合わせることで、1 m ～ 25 m までのケーブル特性にあった音質を再現します。

想定ケーブル長 (m) : OFF/1/3/5/8/12/18/25

送信機の設定

送信チャンネルを設定する

DWZ は、Wide Band と Narrow Band という2つの RF モード（チャンネルモード）を用意しています。

どちらの RF モードも6チャンネルで構成されているので、用途に応じて適切なチャンネルを選択できます。工場出荷時は、RF モードが WIDE、送信チャンネルが1に設定されています。

RF モード	送信チャンネル番号	特長
Wide Band (WIDE)	1/2/3/4/5/6	他の無線機器への影響が少ないモードです。
Narrow Band (NARROW)	a/b/c/d/e/f	クリアチャンネルスキャンを使うことによって、他の無線機器からの影響を回避するのに適したモードです。

ご注意

多チャンネル（最大6チャンネル）で運用する場合には、Wide Band と Narrow Band の2つの RF モードを同時に使用することはできません。どちらか一方の RF モードを選択して運用してください。なお、Wi-Fi およびその他の妨害波の影響

響によって、実際に同時運用できるチャンネル数が少なくなることがあります。

RF モードを選択する

- 1 POWER/MUTING（電源 / 消音）ボタンを長押しして、電源を切る。
- 2 チャンネル選択ボタンを押しながら、POWER/MUTING（電源 / 消音）ボタンを長押し（約 1 秒）する。

チャンネル表示部に「0」が点滅します。
- 3 チャンネル選択ボタンを押して、「1」または「a」を選択する。
- 4 チャンネル選択ボタンを長押しする。

チャンネルを選択する

- 1 電源 ON 時に、チャンネル選択ボタンを長押しする。

チャンネル表示部の表示が点滅します。
- 2 チャンネル選択ボタンを押して、チャンネルを選択する。
- 3 チャンネル選択ボタンを長押しして、チャンネルの選択を確定させます。

ご注意

送信機のチャンネルを変更した場合は、受信機も同じチャンネルに設定してください。

さい。受信機と送信機のチャンネルが一致していないと、音声が出ません。

チャンネル表示

送信機のチャンネル表示部では、各チャンネル番号が以下のように表示されます。

RF モード	チャンネル番号		
Wide Band (WIDE)	1	2	3
	4	5	6
Narrow Band (NARROW)	a	b	c
	d	e	f

チャンネル周波数リスト

Wide Band（WIDE、チャンネル 1～6）および Narrow Band（NARROW、チャンネル a～f）で使用される周波数は以下のとおりです。

信頼性および冗長性を高めるために、それぞれのチャンネルでは互換性のある複数の周波数を使用します。そのなかから周囲の無線環境に応じた周波数が使用されます。

ご注意

通信品質を確保するために、受信機や送信機は無線ルーターやコンピューターの近くに置かないでください。

Wide Band

- より安定した RF 伝送が可能



- 遅延時間：約 5 ミリ秒

チャンネル番号	周波数
1	2402
	2478.5
2	2421.5
	2472.5
3	2427.5
	2475.5
4	2424.5
	2446.5
5	2449.5
	2469.5
6	2405
	2452.5

(単位：MHz)

Wide Band (WIDE) は、無線周波数についての技術的な知識を持っていないくても、他の無線機器への影響を抑えられるモードです。Narrow Band と比べ、より安定した通信のために信号処理を追加しています。

Narrow Band

- 24bit リニア PCM による高音質デジタル伝送が可能



- 遅延時間：約 3 ミリ秒

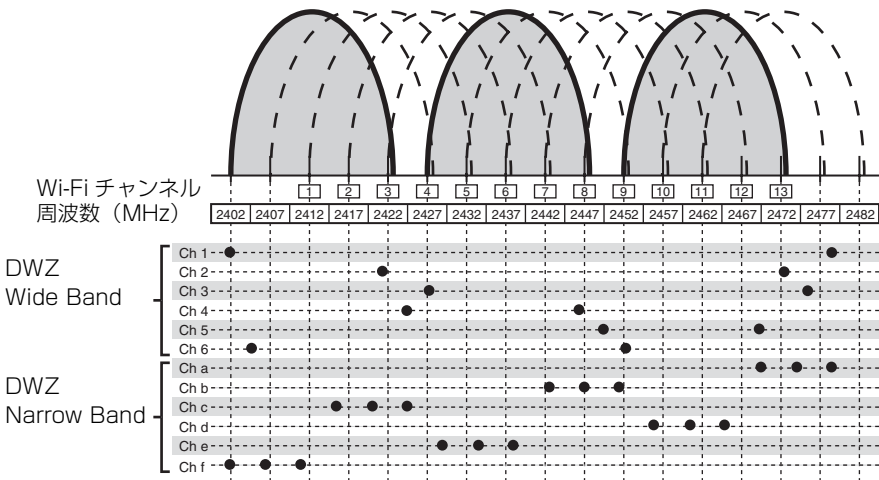
チャンネル番号	周波数
a	2469.5
	2474
	2478.5
b	2442.5
	2447
	2451.5
c	2415.5
	2420
	2424.5
d	2456
	2460.5
	2465
e	2429
	2433.5
	2438
f	2402
	2406.5
	2411

(単位：MHz)

Narrow Band (NARROW) は、照明装置の操作に使用する 2.4GHz の無線リモコンなど、他の無線機器からの影響を回避するのに適したモードです。複数の無線システムを使用する場合は、このモードを使って周波数が重ならないように調整できます。

Wi-Fi チャンネル

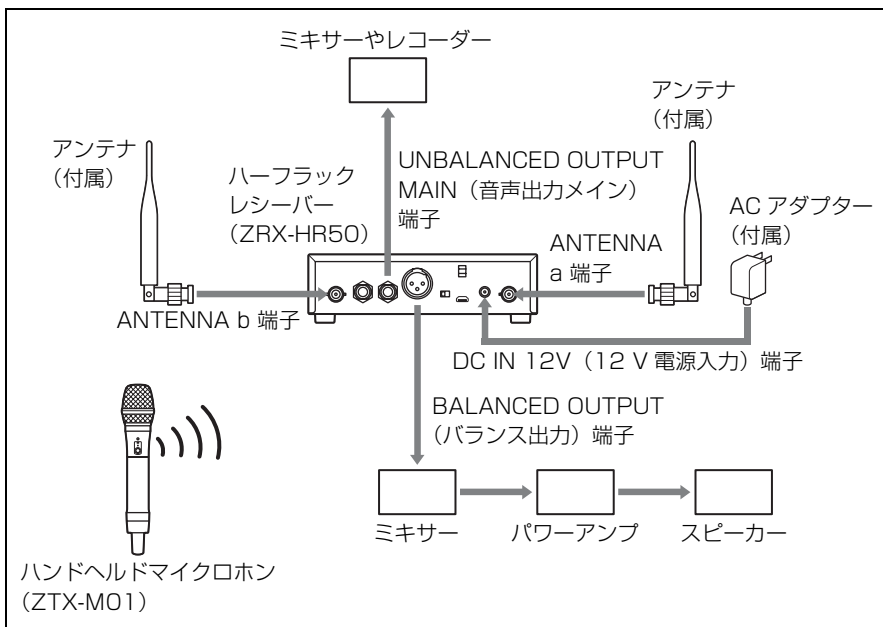
各 Wi-Fi チャンネルがカバーする周波数は以下のとおりです。一般的に使われることが多いチャンネル 1、6、11 がカバーする範囲をグレーにしています。



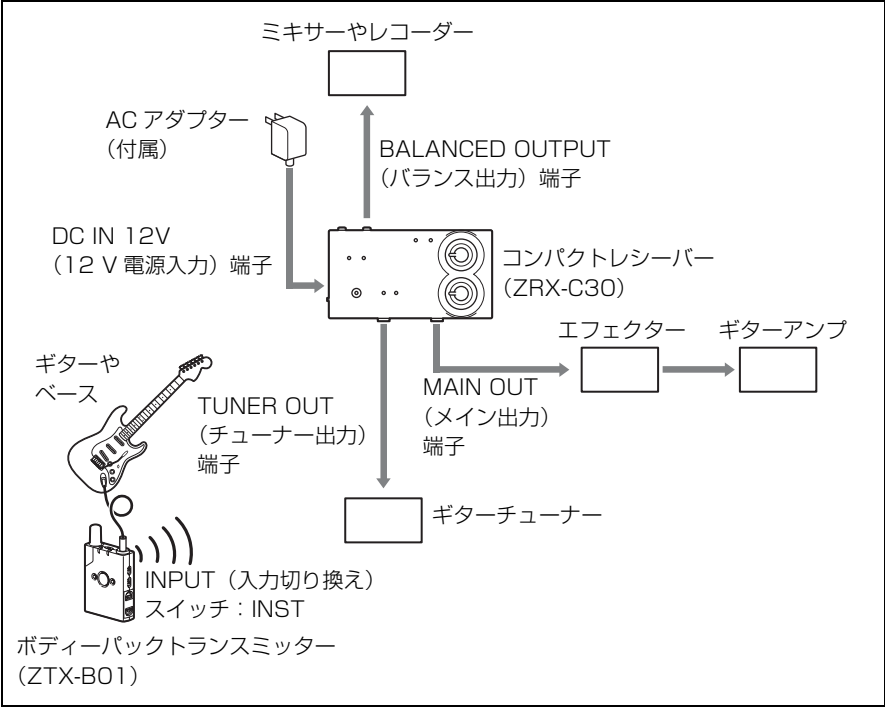
システム構成例

以下のシステム構成は、DWZ シリーズの使用例です。

DWZ-M50 の使用例



DWZ-B30GB の使用例



故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	電池の ⊕ と ⊖ が逆になっている。	正しい方向に入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	スイッチ類がロックされている。	誤操作防止スイッチを UNLOCK にしてください。
電池がすぐになくなる。	電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。
	マンガン乾電池を使用している。	マンガン乾電池の持続時間はアルカリ乾電池に比較して半分以下になりますので、アルカリ乾電池を使用してください。
	寒い環境で使用している。	低温時は、電池寿命が短くなります。
音が出ない。	送信機と受信機の RF モードまたはチャンネルが違っている。	送信機と受信機の RF モードおよびチャンネルを合わせてください。
	ミュートイングの設定になっている。	ミュートイングを解除してください。
音が小さい。	送信機のアッテネーターの設定値が大きい。	入力レベルが小さくなっています。送信機のアッテネーターを適正量に設定してください。
	受信機出力レベルと接続機器の入力レベルの設定が合っていない。	MIC/LINE セレクターを接続機器の入力レベルに合わせて選択してください。(ZRX-HR50)

症状	原因	対策
音が歪む。	送信機のアッテネーターの設定値が小さい。または0である。	音量が過大入力です。音が歪まないように送信機のアッテネーターを設定してください。
	送信機が MIC 入力に設定されている。	音声が入力過多です。INST 入力に設定してください。
	受信機出力レベルと接続機器の入力レベルの設定が合っていない。	MIC/LINE セレクターを接続機器の入力レベルに合わせて選択してください。(ZRX-HR50)
ノイズが発生する。	送信機と受信機の距離が遠い。	音途切れが発生しない距離まで送信機と受信機を近づけてください。
	ほかの機器の電波と干渉している。	チャンネルを変更するか、干渉している機器から本機を離してください。
	2 台以上の送信機が同じチャンネルに設定されている。	同一チャンネルで 2 台以上の送信機は使用できません。
	Wide Band と Narrow Band のチャンネルを同時に使用している。	同時に複数のチャンネルを使用する場合は、Wide Band または Narrow Band どちらかの RF モードに合わせてください。
サービスエリア（使用範囲）がせまい。	受信機にアンテナが取り付けられていない。	付属のアンテナを取り付けてください。
	アンテナを握っている。	アンテナから手を離してください。
音質がおかしい。	ケーブルトーンジェネレーター設定が不適切。	ケーブルトーンジェネレーターの設定を確認してください。(ZRX-C30)
	イコライザー設定が不適切。	イコライザーの設定を 0 にしてください。(ZRX-HR50)
POWER スイッチを押しても電源が切れない。	スイッチ類がロックされている。	誤操作防止スイッチを UNLOCK にしてください。
	RF モードの設定をしている。	RF モードの設定中は、電源を切ることができません。チャンネル選択ボタンを長押しして設定を完了させてから電源を切ってください。(ZTX-M01/B01)

症状	原因	対策
チャンネルの変更ができない。	スイッチ類がロックされている。	誤操作防止スイッチを UNLOCK にしてください。
	設定メニューに入っていない。	19 ページの「設定メニューを表示する」および「受信チャンネルを設定する」にしたがって設定します。(ZRX-HR50)
送信機の電源を切っても、受信機の RF インジケータが点灯している。	妨害電波が出ている。	まず、受信機を RF インジケータが点灯していないチャンネルに設定し、次に、送信機を同じチャンネルに設定してください。

使用上のご注意

本機が使用する 2.4 GHz 帯は、電子レンジ、無線 LAN 機器、携帯端末などのデバイスでも使用されています。

これらの 2.4 GHz 帯を使う無線デバイスからの妨害により、本機の使用範囲が狭くなったりノイズが発生する場合があります。

- ベストチャンネルセレクション機能やクリアチャンネルスキャン機能を使用し、なるべく妨害波の少ないチャンネルを選んでください。
- 受信状態が悪い場合は、電子レンジ、無線 LAN 機器、携帯端末などの 2.4 GHz 帯を使う無線機器を本機から 10 m 以上離すか、本機の RF モードを変更してください。
- それでも改善されない場合は、2.4 GHz 帯を使う無線機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
- ソニー DWZ シリーズ以外の 2.4 GHz 帯を使用したワイヤレスマイクシステムとは、各チャンネルに割り当てられた周波数が異なり互換性がないため、同時に使用できないことがあります。

設置時のご注意

- 複数の送信機を使用した際の相互干渉や、RF の過大入力などによるオーディオノイズを回避するため、送信機と受信機の距離を 30 cm 以上離してご使用ください。
- レシーバーのアンテナは、できるだけ金属物から離して設置してください。

- ギターと組み合わせて使用する際、ピックアップの種類によってノイズが出る場合があります。ノイズが出る場合には送信機をギターのピックアップ部から 30 cm 以上離して設置してください。また、ケーブルの引き回しを変えると、ノイズレベルが改善されることがあります。

マイクロホンとの組み合わせ時のご注意

- マイクロホン ECM-GZ1UBMP (DWZ-B50I に付属) およびマイクロホン ECM-HZ1UBMP/LZ1UBMP (DWZ-M70HL に付属) 以外のマイクロホンを接続すると、音が出ない、位相が反転するなどの現象が起こる場合があります。
- ハンドヘルドマイクロホン ZTX-M01 に他社製のマイクロホンユニットを取り付けると、RFI ノイズや EMF ノイズの原因となることがあります。

使用・保管場所

- DWZ シリーズの機器を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信機のアンテナの位置や送信機の使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。

お手入れ

表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

電波干渉を防ぐために

使用時に外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、電波干渉を防ぐために電波の発射を停止する（電源を切る）か、あるいは周波数の変更（チャンネルの切り換え）を行ってください。

携帯通信機器による電磁波障害を防止するために

携帯電話などの通信機器を本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、音声に影響を与えることがあります。本機の近くでは、携帯通信機器の電源はできるだけ切ってください。

主な仕様

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますがご了承ください。

- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
- 本製品を使用したことによるお客様、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切の責任を負いかねます。
- 諸事情による本製品に関連するサービスの停止、中断について、一切の責任を負いかねます。

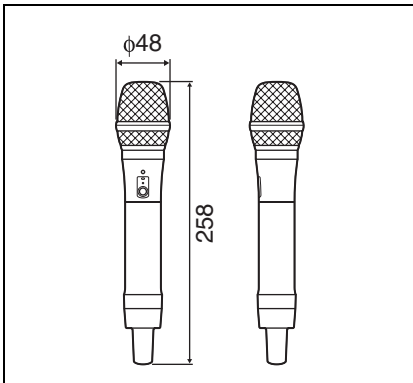
DWZ-M50

使用周波数範囲	2402.0 MHz ～ 2478.5 MHz
占有周波数帯幅	2.5 MHz
電波型式	F1D および F1E
変調方式	GFSK
許容動作温度	0℃～50℃
許容保存温度	－20℃～＋60℃
遅延時間	約5ミリ秒 (Wide Band) 約3ミリ秒 (Narrow Band)

ハンドヘルドマイクロホン ZTX-M01

RF 出力レベル	10 mW (e.i.r.p.)
アンテナ	$\lambda/4$ モノポールアンテナ
マイクロホン型式	単一指向性ダイナミック型
周波数特性	伝送系：10 Hz ～ 22 kHz マイクロホンユニット：70 Hz ～ 18 kHz
最大入力レベル	142 dB SPL (アッテネーターレベル：12 dB 時)
ダイナミックレンジ	102 dB (A-weighted)
電源	3.0 V DC (単 3 形アルカリ乾電池 (LR6) 2 本)
電池持続時間	連続使用約 10 時間 (外気温 25 °C、ソーニー単 3 形アルカリ乾電池使用時)

外形図



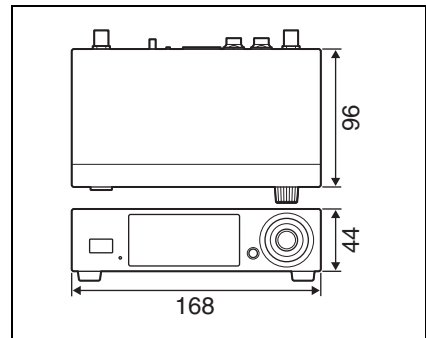
外形寸法 $\phi 48 \times 258$ mm (直径／長さ)

質量 約 305 g (乾電池含む)

ハーフラックレシーバー ZRX-HR50

受信方式	スペースダイバーシティ
アンテナ a/b 端子	BNC-R、50 Ω
周波数特性	10 Hz ～ 22 kHz
最大出力レベル	Balanced Output MIC：- 22 dBu LINE：+ 24 dBu Unbalanced Output：+ 8 dBu
基準出力レベル	Balanced Output MIC：- 58 dBu LINE：- 12 dBu Unbalanced Output：- 28 dBu
電源	外部 DC 入力：DC 12 V
消費電流 (DC 12 V 入力時)	220 mA

外形図



外形寸法 168 × 44 × 96 mm
(幅／高さ／奥行き)

質量 約 510 g

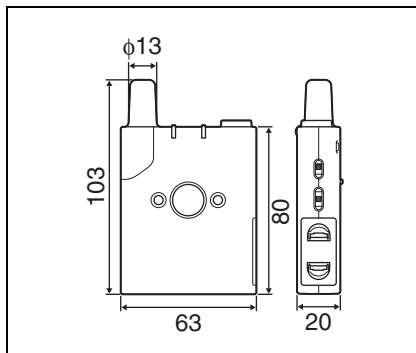
DWZ-B30GB

使用周波数範囲	2402.0 MHz ～ 2478.5 MHz
占有周波数帯幅	2.5 MHz
電波型式	F1D および F1E
変調方式	GFSK
許容動作温度	0℃～50℃
許容保存温度	-20℃～+60℃
遅延時間	約5ミリ秒 (Wide Band) 約3ミリ秒 (Narrow Band)

ボディーパケットトランスミッター (ZTX-B01)

RF 出力レベル	10 mW (e.i.r.p.)
アンテナ	$\lambda/4$ モノポールアンテナ
周波数特性	10 Hz ～ 22 kHz
最大入力レベル	MIC : -22 dBu INST : +8 dBu (アッテネーターレベル : 0 dB 時)
基準入力レベル	MIC : -58 dBu INST : -28 dBu (アッテネーターレベル : 0 dB 時)
ダイナミックレンジ	MIC : 102 dB (A-weighted) INST : 98 dB (A-weighted)
電源	3.0 V DC (単3形アルカリ乾電池 (LR6) 2本)
電池持続時間	連続使用約10時間 (外気温 25℃、ソーニール単3形アルカリ乾電池使用時)

外形図



寸法	63 × 80 × 20 mm (幅／高さ／奥行き) (アンテナ含まず)
質量	約156 g (乾電池含む)

コンパクトレシーバー (ZRX-C30)

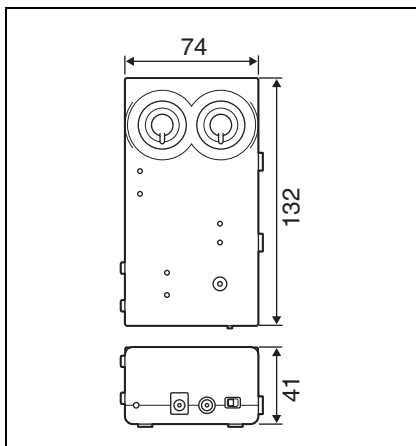
受信方式	スペースダイバーシティ
アンテナ	内蔵型 $\lambda/4$ モノポールアンテナ
周波数特性	10 Hz ～ 22 kHz
最大出力レベル	Balanced Output : +16 dBu Main/Tuner Output : +8 dBu
基準出力レベル	Balanced Output : -20 dBu Main/Tuner Out : -28 dBu
電源	外部 DC 入力 : DC 12 V/DC 9 V 乾電池 : 角形 9 V アルカリ乾電池 (6LR61)
消費電流	DC 12 V 入力時 : 90 mA

DC 9 V 入力時：

120 mA

電池持続時間 連続使用約 3.5 時間
(外気温 25℃、ソ
ニー角形 9 V アル
カリ乾電池使用時)

外形図



寸法 132 × 41 × 74 mm
(幅／高さ／奥行
き)

質量 約 205 g

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

<http://www.sony.co.jp/>